

リーダーの心得

これから6回にわたり「リーダーの心得」をテーマにリーダーの定義やQCサークル活動においてどのようにリーダーシップを発揮していくのが良いのか連載をしていきます。

第1回：リーダーシップとは？

1. リーダーとは

皆さん、「リーダー」と聞いて何を思い浮かべるでしょう？「カリスマ性があるってみんなを引っ張る人？」「スキルが高く崇拝されている人？」「管理職では？」、皆さん様々なイメージがあると思います。そして上司から「リーダーをやってくれ？」といわれると、「自分は素質がないからムリムリ」と尻込みをしてしまう人もいるのではないのでしょうか。尻込みすることはありません。リーダーの重要な素質であるリーダーシップは後天的であり経験や努力で身につけられると言われているからです。

経営学者のピーター・F・ドラッカー氏はリーダーについて「リーダーに関する唯一の定義は、つき従う者がいるということである」と語っています。「つき従う者」とは、「強制力で従わせられる」のではなく、「そのリーダーを信頼してついていきたい」という主体的で能動的なものです。

2. リーダーシップを身につける「場」

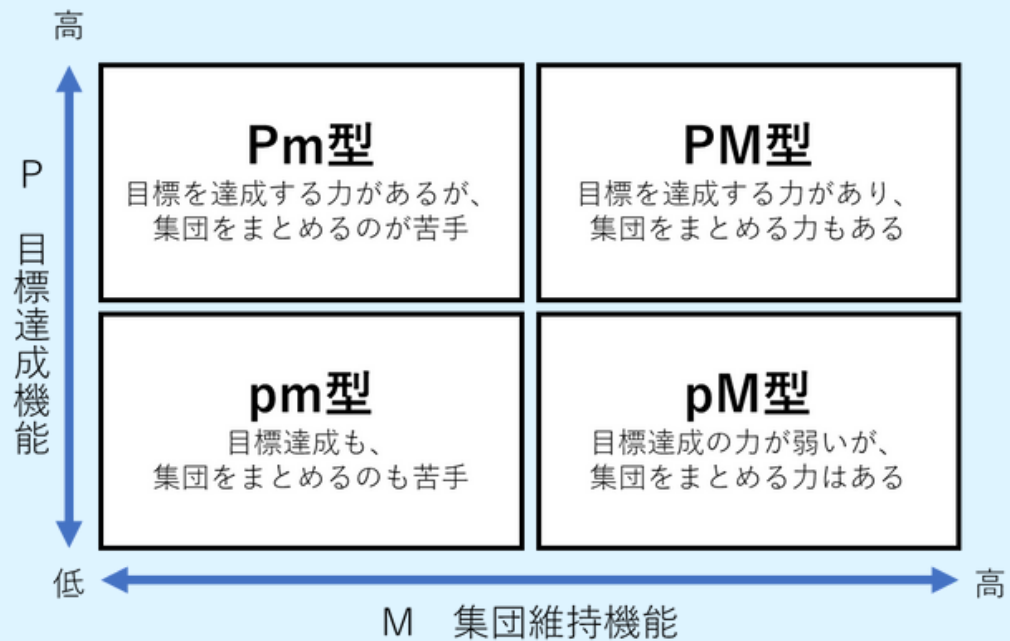
では、どのようにしたら後天的であるリーダーシップを身につけられるのでしょうか？

まずは経験値を増やすためにもリーダーシップを発揮する「場（機会）」が必要です。身近な発揮場所としては職場ですよね。職場におけるリーダーシップとは、一般的には「メンバーを職場目標に向かって引っ張っていく力、まとめていく力」といった意味に使われますが、その点QCサークル活動（小集団活動）はすべての要素が含まれておりリーダーシップを磨くにはうってつけの「場」です。具体的にはQCサークル活動は職場の困りごとをテーマとして決め、目標に向かってメンバー一丸となって問題解決を行う「場」であり、リーダーは活動を牽引しメンバーをまとめるのが役割だからです。

3. 自身の強み弱みを確認する

皆さんは自身のリーダーシップに自信はありますか？ここではリーダーシップは「P機能（Performance function：目標達成機能）」と「M機能（Maintenance function：集団維持機能）」の2つの能力要素で構成されているという三隅二不二（みすみじゅうじ）氏が提唱した「PM理論」をご紹介します。PM理論では、P機能とM機能の2つの能力要素の強弱により、リーダーシップを以下の4つに分類しています（図・1参照）。

ご自身がどのタイプに当てはまるか、そしてどうリーダーシップを磨けば良いのか次回以降解説をしていきたいと思っておりますので楽しみに。



図・1 PM理論の4象限



野上 真裕

株式会社 T M J 運営監理部 副部長

NGM K-consulting 代表

QCサークル本部幹事、『QCサークル』誌編集委員、QCサークルセミナー指導講師 など
 QCサークル関連事業に数多くご協力いただいております。

ご自身の豊富な社内外での経験から、小集団のリーダーの皆様へ役立つ提言をいただきます。